

国語科学習指導案

日時 平成24年5月25日(金) 2校時

対象 3年4組(男子20名 女子20名 計40名)

指導者 教諭 林 涼 子

1 単元(教材)名 比較して読もう(「冥王星が『準惑星』になったわけ」三省堂 他)

2 単元設定の理由

(1) 教育的意義

現代では情報伝達手段が多様化し、誰でも、いつでも、様々な情報を入手できるようになった。特に、インターネット等を活用した情報の収集や伝達は、迅速かつ容易にできるため、多くの人に利用されている。一方、新しい情報や多様な情報を次々に入手できる分、情報の真偽や公平さについて考えたり、ある情報について時間をかけて咀嚼し、自分なりの意見や考えをもとめたりする態度が育ちにくくなってきている。また、インターネット等では、情報の発信者が漠然としている場合が多く、誰が、何のためにその情報を発信したのかを認識しづらい。そのため、「相手」の目的や意図を無視した独りよがりな解釈も起こりかねないという現状がある。

このような状況は中学生も例外ではなく、多くの生徒が、自分が入手した情報が正しいと思い込み、鵜呑みにしてしまう傾向にある。また、一つの情報で満足してしまい、他の捉え方はできないかを調べたり、発信した人の目的や意図を理解した上で情報を取り入れようとしたりする姿勢に欠ける傾向にある。さらに、図書の本や新聞等、活字による情報より、テレビ等、映像や音声による情報やインターネット等による簡略化された情報を受け入れやすいという傾向も見られる。

そこで、二つの新聞記事や説明文と新聞記事を比較する活動を通して、同じ情報でも相手や目的や意図に応じて取り上げる事柄や書き方が異なることに気付かせ、自分の目的や必要に応じて情報を収集・選択しようとする態度を育成するとともに、その情報の真偽等について判断したり自分なりの意見をもったりしながら読む能力を高めさせたいと考えて本単元を設定した。

本単元で教材として用いる新聞記事は、冥王星が惑星でなくなったことを、一方は事実のみを淡淡と述べ、もう一方は筆者の感情を交えて述べたものである。また説明文「冥王星が『準惑星』になったわけ」は、今回の決定に至るまでの歴史を述べながら冥王星が惑星でなくなった理由を説明したものである。生徒は、これらの教材を読み深めることによって、天体に興味をもち、長い時間や多くの努力の結果、宇宙の謎が解明されつつあることに感動することができる。また、三つの文章を比較しながら読むことによって、同じ話題でも、取り上げられた事柄や書き方が異なることに気付き、その理由について考えようとする意欲を高めることができる。

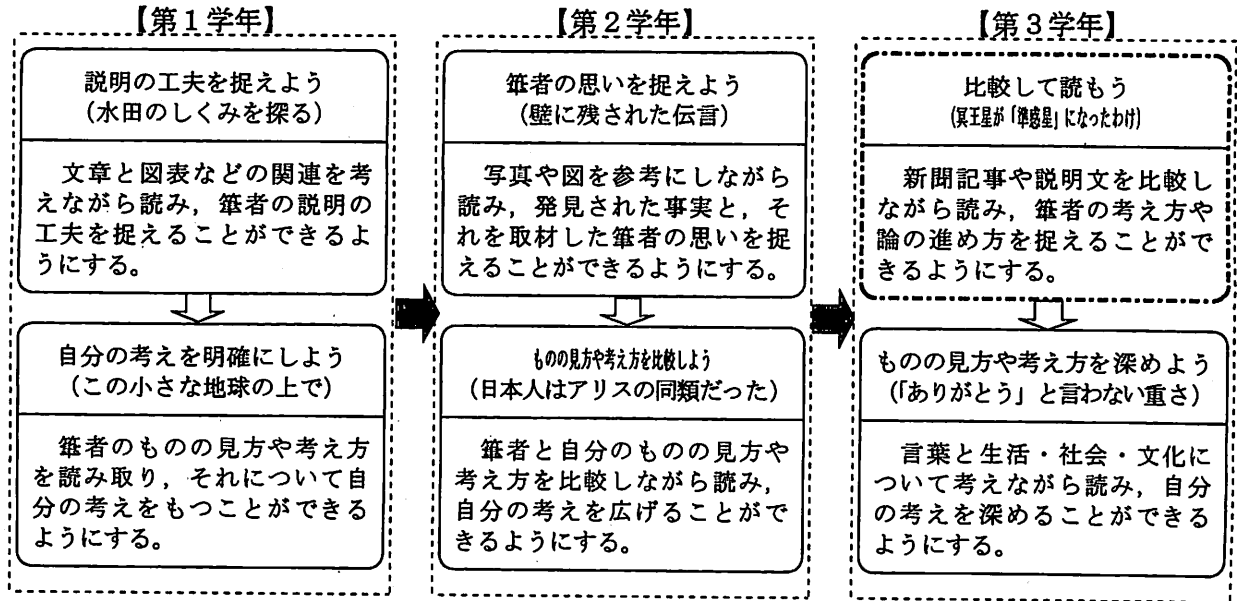
具体的には、まず、二つの新聞記事を比較させる活動を通して、新聞という情報の伝達手段に目を向けさせるとともに、新聞の各コーナーでは、情報を発信する人の目的や意図に応じて、取り上げる話題や事柄が選択され、表現が工夫されていることを理解させたい。次に、教科書教材「冥王星が『準惑星』になったわけ」を読み深めさせる活動を通して、文章の展開や構成の工夫等に気付かせたり、筆者が伝えたいことを読み取ったり、新しい知識を得る喜びを実感させたりしたい。

さらに、新聞記事と説明文を比較する活動を通して、自分の目的や必要に応じて、簡潔にまとめられた情報と詳しく説明されている情報を選択する必要があること、情報を受け入れるだけでなく、自分の意見や考えをもつことが、視野を広げ、生活を豊かにすることなどを実感させたい。

このような学習を通して生徒は、書き手の伝えたいことを、相手の目的や意図を考慮しながら正確に理解する能力を高め、自分の表現に生かそうとする態度を高めることができるものとする。

(2) 連関的意義

本単元は、ねらいと教材・学習活動の構成の系統において以下のような関連をもつ。



3 単元の目標及び評価規準

【単元の目標】

- (1) 複数の文章を積極的に比較し、それぞれの文章の語句の使い方や書き方の工夫を捉えることによって、文章の要点や筆者の主張、目的や意図に応じた書き方等について理解しようとすることができる。
- (2) 複数の文章を、文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫について比較しながら読み、目的や意図に応じた表現の仕方について理解を深めることができる。
- (3) 文章を読んで自然の摂理やそれを解明しようとする人間の努力のすばらしさに触れ、人としての生き方に対する考えを深めることができる。

具体的には次に掲げる内容を重点的に指導する。

評価の観点	評価規準	学習指導要領との関連
国語への関心・意欲・態度	① 二つの新聞記事の比較や新聞記事と説明文の比較を通して、それぞれの特徴や書かれた目的や意図を進んで捉えようとしている。 ② 筆者の表現の工夫に注意しながら説明文を進んで読み、要点や筆者の主張、文章の展開や構成の工夫を捉えようとしている。	
読む能力	③ 二つの新聞記事を比較し、それぞれ目的や意図に応じて用いる語句や表現の仕方が工夫されていることを理解している。 ④ 説明文において、伝えたいことを分かりやすく表現するために、構成や展開、表現の仕方等が工夫されていることを理解している。 ⑤ 説明文に書かれた内容を理解し、自然の摂理やそれを解明しようとする人間の努力のすばらしさに触れ、人としての生き方について考えを深めている。 ⑥ 新聞記事と説明文を比較しながら読み、目的や意図に応じて表現の仕方が異なることを理解し、自分の表現に生かそうとしている。	ア 語句の意味の理解 ウ 文章の構成や展開、表現の仕方等 エ 自分の意見をもつこと

4 単元の指導計画

(1) 単元設定の視点

ア 生徒の実態から

生徒はこれまでに、説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べる学習等を通して、文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめたり、文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えを明確にしたりする力を高めてきている。

また、本学級では、具体的に次のような実態が見られる。

- ・ ほとんどの生徒が、進んで音読や黙読をし、学習課題を解決するためにキーワードを捉えようとするとともに、説明的文章における要点となる語句や表現を捉えたり、要旨となる段落を指摘したりすることができる。
- ・ 文章の構成や展開、語句の用い方など表現の仕方の工夫について理解することはできるが、その意図や効果等について自ら捉えるまでに至っていない生徒が多い。
- ・ 二つの文章を比較し、共通点や相違点を探ることはできるが、その根底にある書き手の目的や意図まで進んで理解しようとする生徒は少ない。

このような実態から、指導に当たっては、読みの視点を明確にすることによって、筆者の表現の工夫や目的や意図を生徒自ら捉えることができるようにしたい。また、目的や意図に応じた書き方やその効果に気付かせるために、比較する活動を取り入れ、同じ話題なのに、取り上げる事柄や書き方が異なる理由について考えさせたい。

イ 指導上の手立て（本校の研究内容との関連から）

① 言語活動を重視した単元構成の工夫

本単元は、学習指導要領にある言語活動例の「イ 論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと」を中心に構成した。情報を伝達する手段が多様化し、様々な情報が氾濫している今日では、複数の情報を比較し、その真偽や適否などを見極めようとする態度やそれぞれの情報が目的や意図に応じて発信されていることを理解し、自分の必要に応じた情報を、適切な媒体を通して収集・選択しようとする態度の育成が大切である。

そこで、本単元では、初めに同じ話題について書かれた二つの新聞記事について、取り上げられている事柄や語句の用い方や表現の仕方の工夫について比較する活動を行わせることにした。次に、ニュースとして報道された事柄を更に詳しく、分かりやすく説明してある文章を読み深める活動を設定した。生徒は、説明文の特徴を再確認するとともに、自然の摂理やそれを解明しようとした人々の努力に触れ、人としての生き方を学ぶことができるものとする。最後に、新聞記事と説明文を比較する活動を設定した。中学生を対象として書かれた文章と、不特定多数の人を読者として書かれた文章の違いに気付かせ、読み手や情報を伝達する目的や意図が異なると取り上げる事柄や書き方が異なってくることを実感させるためである。

このように、いくつかの情報を比較することを通して、生徒は、自分の目的や必要に応じた情報の収集や選択が大切であることを体感するものとする。

② 「比較」による思考の広がりや深まりを促す活動の工夫

本校では、「読むこと」の学習において、生徒の思考の広がりや深まりを促すために、複数の文章を比較する活動を大事にしている。

明確な観点をもって比較することによって、いずれか一つ、またはそれぞれのよさが明白になる。そのため、表現されたものや表現の仕方の適否、正誤、美醜等について、自ら思考し、判断することになるからである。また、グループや全体で建設的に批判し合うことによって、生徒の思考が更に広がり深まるものと考ええる。

本単元では、まず、二つの新聞記事を一読させ、「自分だったらどちらの記事を書くか」という視点から一つを選ばせる。その後、二つの文章を、用いられている語句や表現の仕方、展開の仕方等を比較しながら読ませ、その文章を書きたいと思った理由を明確にさせる。その過程で、それぞれの文章の特徴や書き手の目的や意図に気付かせたい。

なお、効果的に比較させるためには、同じような内容や分量であるとともに、文章の構成が似ていることが望ましい。そこで、教材として用いる新聞記事については、書かれてあることや語句や表現はそのまま、後の文章を省略することによって同程度の分量にしたり、形式段落をまとめたりして、できるだけ比較しやすいように工夫したい。

次に、新聞記事と説明文の比較を行わせる。ここでは、あえて長さや形式等の異なる文章を比較させることによって、同じ話題を取り上げても、読み手や書く目的や意図によって、書き方が大きく異なることを実感させ、様々な伝達手段があることを理解させたい。

このような学習を通して、生徒は、自ら考え、判断しようとする態度を高めるとともに、多様な見方・考え方ができるようになるものと考ええる。

(2) 単元の指導計画（全7時間）

種	主な学習活動	単	指導に当たっての手立て	評 価
導 入	1 単元を概観し、複数の文章を比較しながら読み深めていく学習であることを確認する。 2 説明文や写真等を基に、太陽系の惑星について知る。	1	・ 話題や用いられている固有名詞等に対する抵抗を少なくするために、教科書教材「冥王星が『準惑星』になったわけ」をCDで聞かせたり、写真等を用いて惑星について理解させたりする。	評価規準① (観察)
展 開	3 二つの新聞記事を比較し、その記事が書かれた目的や意図を探る。	1 構	・ 同じ新聞社の一面の記事と社説を比較させることによって、同じ話題でも、目的や意図に応じて取り上げる事柄や書き方が異なることを理解させる。	評価規準①② ③(発表・観察・ワークシート)
	4 「冥王星が『準惑星』になったわけ」を読み、惑星についての研究の歴史や、文章の構成や展開、語句や写真の用い方等について捉える。 (1) 文脈に沿って大まかな年表を作り、天文学の歴史についてまとめる。 (2) 冥王星が準惑星になった理由についてまとめる。 (3) 筆者の主張や表現の工夫やそれらに対する自分の考えをまとめる。	3	・ 天文学の歴史をより確かに理解させるために年表を作らせ、誰がどのような技術の基に何を発見したのかを分かりやすくまとめさせる。 ・ 「複雑な問題」「恐れていた事態」などの語句に着目しながら、冥王星が準惑星になった理由をまとめさせる。 ・ 最後の段落の意味を考えさせ、筆者が読者に伝えたいことを捉えさせる。 ・ 文章の展開の仕方等に注目させ、筆者の表現の工夫を捉えさせる。 ・ 天体に関わる研究に多くの人と時間が費やされていることに注目させ、人の生き方のすばらしさに気付かせる。	評価規準②④ ⑤(発表・観察・ワークシート)
	5 二つの新聞記事と説明文を比較し、それぞれの文章の果たす役割について話し合う。	1	・ 三つの文章を比較させることによって、読み手や書く目的や意図が異なるために内容や表現の仕方が異なることに気付かせる。	評価規準①⑥ (発表・観察・ワークシート)
終 末	6 学習を振り返り、目的や相手に応じた文章の書き方についてまとめる。	1	・ 比較して分かったことをまとめることによって、情報を収集・選択する際に注意すべきことを理解させる。	

5 本時の指導 (2/7)

(1) 指導目標

同じ話題について書かれた新聞の一面の記事と社説を比較しながら読む活動を通して、新聞記事には、それぞれ目的や意図があり、それに応じて取り上げる事柄や表現の仕方が工夫されていることを理解することができるようにする。

具体的には、主として評価規準③に即して、次の「読むこと」に関する能力の育成を目指す。

十分達成されている	二つの新聞記事を比較することを通して、新聞の各コーナーには、それぞれ役割があり、相手や目的や意図に応じて取り上げる事柄や表現の仕方が工夫されていることを理解している。
おおむね達成されている	二つの新聞記事を比較し、それぞれ目的や意図に応じて用いる語句や表現の仕方が工夫されていることを理解している。
達成していない生徒への手立て	<ul style="list-style-type: none"> 形式段落に着目させ、それぞれの段落ごとに比較させることによって、二つの文章の相違点に気付かせる。 実際の新聞を提示し、その記事が掲載されているページや場所、使われている紙面の広さ等を基にそれぞれのコーナーの役割を考えさせる。

(2) 目標行動 (G)

二つの新聞記事を比較して分かったことを、例えば次のように発表することができる。

新聞の各コーナーにはそれぞれ役割があり、目的や意図に応じて内容や書き方が工夫されている。読み手は、自分の興味・関心や必要に応じて、どの部分をどのように読むかを選択することが大切である。また、書かれてある事柄をただ鵜呑みにするのではなく、複数の記事を比較し、共感できることや、できないところを明確にするなど、その文章について自分の考えをもちながら読もうとする姿勢をもつことが大切である。

(3) 下位目標行動

① それぞれの文章が新聞のどの部分に書かれたものであるか考え、その特徴や役割について例えば次のように発表することができる。

- Aの文章は新聞の一面に掲載されたものであり、ニュースとして広く読者に伝えるための文章である。そのため、見出しだけでニュースの内容を判断できるように工夫したり、朝の忙しい時間でも、大まかな内容を理解することができるように、事実のみを簡潔に書いたりしている。また、もっと詳しく知りたい人のために、解説や写真等も掲載されており、読む人の必要性に対応できるように工夫されている。
- Bの文章は新聞の社説であり、新聞社としての考えや意見を伝えるための文章である。そのため、見出しにも書き手の気持ちが伝わるような表現を用いている。また、擬人法を用いたり、書き手の考え方や感じ方が分かる語句や表現が多く用いられ、読む人の興味を引いたり、読みながら考えを広げたり深めたりできるように工夫されている。

② それぞれの記事にふさわしい見出しを指摘することができる。

③ 二つの文章の内容や書き方が異なる理由を説明することができる。

④ A・Bそれぞれを書きたいと思う理由をグループでまとめ、例えば次のように発表することができる。

- 冥王星が惑星でなくなったということは、人々が関心をもつニュースなので、まず、その事実を伝え、なぜ惑星でなくなったのかという理由を読み手に理解してほしいからAの文章を書きたい。
- 冥王星が惑星でなくなったということは、天体に関心をもつ人にとって衝撃的なニュースなので、そのことについて自分なりの考えをきちんと伝えたいからBの文章を書きたい。

⑤ 書きたいと思う文章が同じ者同士でグループを作り、なぜそのような文章を書きたいのかについて話し合うことができる。

⑥ その文章を書きたいと思う理由を明確にするために二つの文章を比較しながら読み、その相違点について、例えば次のようなことを指摘することができる。

【A】

- 惑星と矮惑星の定義がきちんと書いてあり、冥王星が惑星でなくなった理由が明確に書かれている。
- 「入ることになった」「とされた」「否決された」「明記された」「位置づけられた」「含まれる」「つくられていた」というように、断定表現を用いて事実のみが書かれている。
- 結論→結論の補足→理由→経緯の順に述べ、結論や理由を重視した書き方がしてある。

【B】

- 定義には触れていないが、決定に至るまでの経緯を詳しく説明している。
- 「気の毒なことになった」「しのびない」「人の子である」というように、作者の気持ちが伝わるような語句や表現を多く用いたり、「これで本当に惑星といえるのか」のように、読者にも考えを促したりするような表現を用いている。
- 結論→経緯→理由→経緯の順に述べ、経緯を重視した書き方がしてある。

⑦ 自分が書きたいと思う文章を選ぶことができる。

⑧R 本時の学習の流れを理解することができる。

⑨R 本時の学習目標を「自分が書きたい文章を選び、なぜ書きたいと思うのか詳しく説明しよう。」であると確認することができる。

⑩R 二つの文章を音読し、それぞれの文章から受けた印象を発表することができる。

(4) 本時の実際

時間	学習過程	指導上の留意点	評価活動
5'	スタート 二つの文章を音読し、受けた印象を発表する。 1 (10R)	<導入> ・ 二つの文章を音読させ、受けた印象を発表させることによって、本時の学習に対する意欲を高めさせる。 ・ 本時は、自分が新聞記者だったら、どちらの文章を書きたいかを選び、その理由を明確にするために、二つの文章を比較する学習であることを確認させる。	
5'	本時の学習目標と学習の流れを確認する。 2 (9R, 8R)	<学習目標> 自分が書きたい文章を選び、なぜ書きたいと思うのか詳しく説明しよう。 ・ 学習に対する見通しをもたせるために、学習の流れを確認させる。	
10'	文章を比較して自分が書きたいと思う理由を探る。 3 (7, 6)	<展開> ・ 二つの文章を以下の点について比較させることによって、違いを明確にさせ、その文章を書きたいと思う理由をよりの確に捉えさせる。 ・ どのような事柄が書かれてあるか。 ・ 語句や表現にはどのような特徴があるか。 ・ 段落はどのように構成されているか。 ・ 何を重視しているか。 ・ 語句や表現にこだわらせるために、キーワードとなる語句や、一方にはあって、もう一方にはない表現等に線を引かせる。	○ 二つの文章を比較し、違いを明確にすることができたか。 (観察・ワークシート)
10'	グループで互いに調べたことを発表し合い、書きたいと思う理由をまとめる。 4 (5, 4)	<達成していない生徒への手立て> ・ 二つの文章を形式段落ごとに比較させ、同じような内容が書かれてあるのに用いられている語句や表現が異なる部分に着目させる。 <達成している生徒への手立て> ・ 「書き手」「読み手」それぞれの視点から考えさせることによって、読み手を想定しての記事であることに気付かせる。	○ その文章を書きたいと思う理由を明確にすることができたか。 (発表・観察)
10'	全体で発表し合い、二つの文章の違いがある理由を話し合う。 5 (3)	・ 同じ文章を選んだ者同士でグループを作らせ、互いの考えを広げたり深めたりさせる。 ・ より適切な理由に高めさせるために、グループでの話し合いで互いに納得した理由を発表させる。	○ 友達との話し合いを通して、自分の考えを広げ深めることができたか。 (発表・観察)
8'	二つの文章の果たす役割や、新聞の果たす役割等について話し合う。 6 (2, 1)	・ なぜ、二つの文章に違いがあるのかを考えさせることによって、「書きたい理由」を明確にするためには、その文章が誰に向けて、何のために書かれたものであるかを考える必要があることに気付かせる。	◎ 二つの文章の特徴や目的や意図を理解することができたか。 (発表・観察)
2'	学習のまとめをし、次時の学習について確認する。 7 (G)	<終末> ・ 二つの文章の見出しや新聞のどこに書かれている記事か考えさせることによって、AとBにはそれぞれ役割があることに気付かせる。 ・ 新聞は、いろいろな情報をいろいろな形で伝える役割を果たしていることを確認させる。 ・ 次時からは、説明文を読んで冥王星が惑星でなくなった理由について詳しく読み取り、更に新聞記事と説明文の違いについて調べる学習を行うことを知らせる。	○ 新聞の役割について理解することができたか。 (発表・観察)
	ゴール		